

# AJU愛実

認定

編集：特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実  
(大地の家／紙風船)

定価：一部100円

## 第63号 会報

福祉の創造 合理的配慮について考える/ 理事長 戸田 真二	P1
誰もが安心して過ごせる避難所へ	P2
大地の家（生活介護）	P3
紙風船（生活介護）	P4
ナミコガイの伝言/ 島 しづ子	P5
寄付者名簿	P6



大地の家 -毎月の壁画作りから-

## 福祉の創造 合理的配慮について考える

理事長 戸田真二

### 合理的配慮とは

障害者差別解消法の改正により、令和6年4月から行政機関や事業者には「合理的配慮」を提供することが義務になりました。「障がいのある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としている」との意思が示されたときには、負担が重すぎない範囲で対応することが求められます。」という考え方が基本になります。合理的配慮とは、特別扱いではなく、誰もが同じスタートラインに立つためのちょっとした工夫のことです。たとえば、黒板が見えにくい子に前の席に座ってもらうことや、車いすの方が入れるようにスロープを用意することなど、日常の中でできる小さな調整が含まれます。

### 愛実の会で感じてきた変化

愛実の会では、多くのメンバーが車いすを利用しています。外出の際には、車いす対応トイレの有無や車いすで入れるか、段差はないか等バリアフリー情報を事前に調べ、お店に確認してから計画を立てています。義務化されたとはいえ、まだ不便は多く、どこでも安心して出かけられる状況には届いていません。それでも、相談すると前向きに対応してくれるお店が増え、社会が少しずつ変わってきたことを実感しています。以前は「無理です」と頭ごなしに断られることも珍しくありませんでしたが、今は一緒に方法を考えてくれる場面が増えました。

### 合理的配慮がつくる“生きやすさ”

合理的配慮は、学校・職場・医療・避難所など、生活のあらゆる場面で求められます。大切なのは「できない」で終わらせず、「どうしたらできるか」を一緒に考える姿勢です。こうした視点が広がることで、障がいの有無に関わらず、誰もが暮らしやすい社会に近づいていきます。共生社会は遠い理想ではなく、私たち一人ひとりの身近な行動から始まるものだと感じます。

### 災害時こそ必要になる合理的配慮

「みなさんの迷惑になる」「一人では避難ができない」「避難所には居場所がない」等、避難することを初めから『あきらめている』と回答されている方々が多くいます。大災害時、障がいのある方の死亡率は二倍とも言われ、関連死の多くも要配慮者です。東日本大震災では「避難所に障がい者はいなかった。または排除された」との報告もあります。能登半島地震では関連死が直接死を上回ったそうです。『あきらめさせない』ために、日頃からのつながりや地域の工夫が欠かせません。南海トラフ地震の想定では、愛知県の避難者数は全国一位とされています。避難所のルールは避難所ごとにつくられるため、どれだけ合理的配慮が実現できるかは、地域の姿勢に大きく左右されます。「誰も排除しない防災」を実現するためにも、合理的配慮は欠かせない視点です。私たち一人ひとり、身近な誰かの「できるようにする工夫」を、今日からどれだけ増やしていけるでしょう。

## 誰もが安心して過ごせる避難所へ

災害時、避難所には子ども、高齢者、障がいのある方、外国人、ペット連れの方など、多様な人が集まります。その誰もが安心して過ごせるように、空間・情報・運営の工夫をあらかじめ備えておく考え方が、「ユニバーサルデザインの避難所」です。これは合理的配慮がどこまでできるかがポイントとなります。

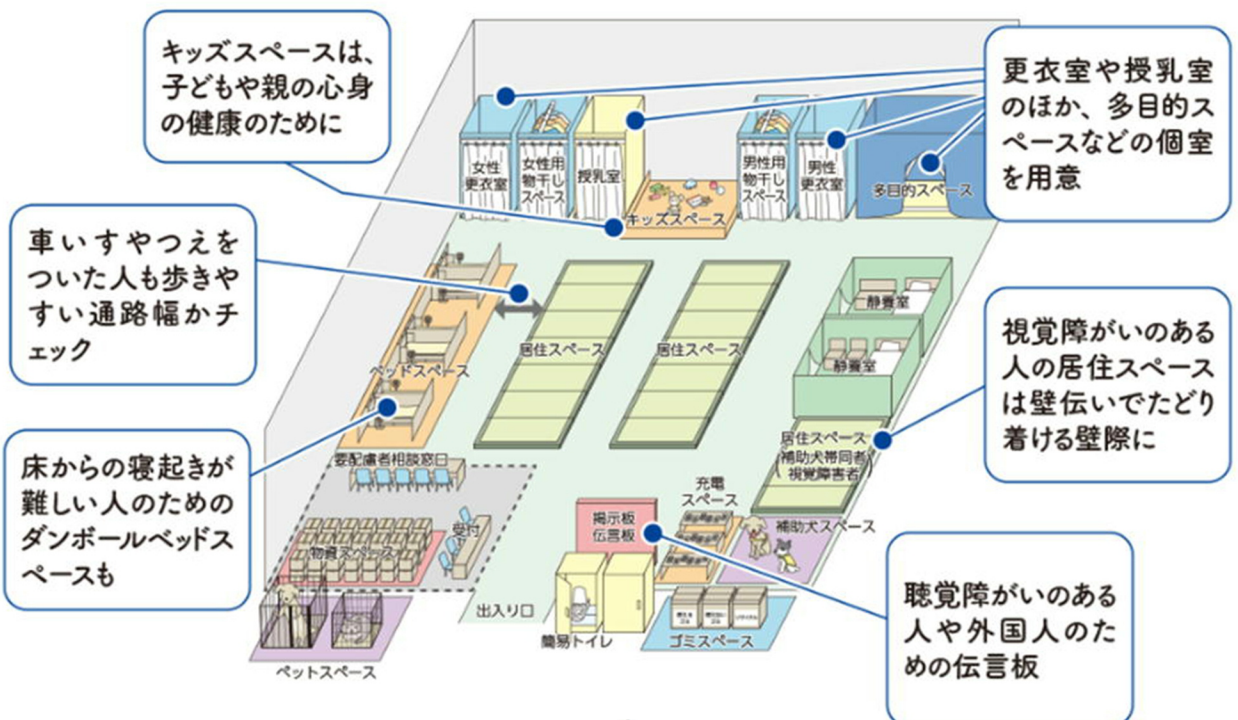
小さな配慮は大きな安心につながります。そして、特定の人だけでなく、そこに集うすべての人に役立つことが大切です。災害時は困りごとが表面化しやすく何が起るかわかりません。特別な設備だけで実現するものでもなく、小さな工夫と気づきの積み重ねが、誰も取り残さない避難所づくりにつながります。こうした取り組みは、地域全体の防災力を高め、誰もがあきらめず、安心して過ごせる地域共生社会の実現に近づきます。

### ◆ 合理的配慮の4つのポイント

1. 情報が伝わること  
やさしい日本語・多言語・ピクトグラム・掲示板など
2. 動きやすい空間づくり  
車いす動線、段差解消、静かなスペースの確保
3. プライバシーと安心の確保  
授乳室・更衣室・多目的室、仕切り、ベッドスペース
4. 困りごとを伝えやすい運営  
要配慮者相談窓口、丁寧な聞き取り

### ◆ あきらめさせない5つのポイント

1. 合理的配慮は“特別扱い”ではなく、必要な支援
2. 助けを求めることは迷惑ではなく、当然の権利
3. お互いさま文化を災害時にも活かす
4. 避難の判断を遠慮で遅らせない
5. 迷惑をかけないより命を守る





# 大地の家

(生活介護)

## 毎月の工作 -壁面作り-

大地の家では、毎月、翌月の季節をモチーフにした壁画作りを行っています。

ご自宅と施設を往来する日々の中では、どうしても季節の変化を感じる機会が限られてしまいがちです。

「少しでも旬の空気感を楽しんでもらいたい」という思いから、私たちは季節を身近に感じられるような様々な取り組みを大切にしています。

その中心となる壁画作りは、二日間にわたる工作活動として実施しており、より多くのメンバーが制作に関わることができるよう工夫しています。

今回は「梅」をテーマに、ユニークな手法で背景作りを行いました。

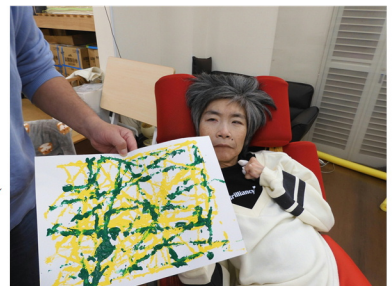
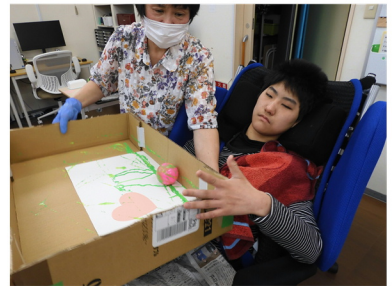
画用紙の上で、絵の具をつけたボールを転がして色をつけていく手法です。

メンバーには好きな色を選んでもらったり、実際にボールを転がしてみたり、あるいは転がるボールの動きを目で追ってもらったりと、一人ひとりが自分の得意な形、あるいは心地よいと感じる形で制作に参加しました。

また、作品に深みを出すため、立体的になるような工夫も凝らしました。お花紙を揉みほぐし、梅の花の台紙に貼り付けていく作業です。

大地の家には、自分の思い通りに体を動かすことが難しいメンバーも多くいます。しかし、工作を通じて絵の具の鮮やかさに触れ、紙の感触を指先で確かめるなど、視覚や触覚から得られる刺激は、日々の生活に彩りを与える大切な要素となっています。

完成した壁画は大地の家の壁を明るく飾り、今日もメンバーや訪れる人々に季節の訪れを告げてくれています。これからも、一人ひとりの「参加したい」という気持ちを引き出しながら、活動を続けていきます。



## 新メンバーが加わりました

1月から新メンバーが増えました。はじめのうちは緊張されていましたが、近頃では慣れてこられたようで、大きな声と表情で気持ちをしっかりと表現してくれるようになりました。

まだまだお互いにわからないことだらけですが、徐々にお互いのことを知り合えたらと思います。



# 紙風船 (生活介護)

## 地域の人々との交流 ～ごちゃまぜ運動会～

2025年の秋は、公演を含めて外出の機会が続きました。11月29日(土)には、とだがわこどもランドで開催された「ごちゃまぜ運動会」に初めて参加しました。この催しは、障害のあるなし、年齢・国籍・性別などに関係なく、誰でも参加できるインクルーシブな運動会で、その名の通りオープンな雰囲気の中、大玉転がしや棒サッカー、車イスパン食い競争等に参加しました。子どもさんも多く、一般の方の中にまじりメンバーの生き生きとした姿をあらためて発見したり、多くの方との交流の場となり、大変有意義な体験となりました。



## 親子クリスマス劇場

2025年12月21日、紙風船主催の地域ふれあい公演、名づけて「親子クリスマス劇場」を愛実の会となりの防災センターにて開催しました。

今回は、愛知県下のアマチュア人形劇団有志が集まって結成された、「人形劇団ひつまぶし」の皆さんをお招きしてのジョイント公演となり、昨年度3月に開催した地域ふれあい公演を超える70名近くのお客様がいらしてくれました！小さなお子様から大人まで「楽しかった！」とみなさんの感想をいただき、やりがいのあるイベントになりました。公演の後には、デイルームにて、ひつまぶしさんとの交流&食事のクリスマス会！おしゃべりにも花が咲き、和気あいあいとした素敵なクリスマスとなりました。



## 新メンバー 吉川恵一さん

昨年の10月から紙風船の仲間になりました。これから楽しく活動していきましょう！



公演依頼募集中です！  
紙風船の活動は右記QR  
コードをチェック！



## ナミコガイの伝言

島 しづ子

みなさま、愛実の会にご協力ありがとうございます！

沖縄での生活が四月から七年目に入ります。今、辺野古・大浦湾の新基地建設現場ばかりでなく、奄美大島・馬毛島・沖縄島・宮古島・石垣島・与那国島でも自衛隊基地が拡大されて自然環境が急激に悪化しています。沖縄県は70%以上の人が新基地建設NOの意思表示をしましたが、無視されて工事が進んでいます。戦争が始まる気配を濃厚に感じます。どうしたらいいのかと考える日々です。

毎週辺野古の海で船に乗り、工事をする人たちに抗議をしています。おかしいことですが、目の前の工事する人たちの技術には感心しています。荒い海の上で、見えない海底に長い砂杭や鉄杭を打つのですから驚かされます。とは言え、海底にはサンゴもいれば貝も魚も生きていてその命が踏みつぶされているのですから胸が痛みます。しかも完成したら、そこが人殺し行為の発信地になるのです。

この禍々しい景色を見て、カヌーの上に立って「やめてください！大浦の海を殺さないで！」と涙を流して叫ぶ仲間がいます。その叫びに私はたまらなくなって、船のマイクを準備して、工事をする人たちに呼びかけます。「皆さんの技術は素晴らしいです。その技術は人殺しのためではなく、命を育む仕事のために使いませんか。人間の一番の仕事は人間の命や自然の中に生きている命を見守ること、育むことではないでしょうか？」と。このように叫び続けても工事は着々と進み、自然がどんどん破壊されて行きます。

海況が悪くて海上行動ができない日は、大浦湾の奥にある瀬嵩前浜という浜辺に行き、そこから海上の工事の様子を監視します。その後で貝を拾います。浜辺にゆりあがる貝は、日によって違います。そこでは特にツノガイとナミコガイを探します。ツノガイもナミコガイも1.5cmほどの小さな貝です。ツノガイは大浦湾の谷底90mもある砂泥地に住む貝です。軟弱地盤と言われている場所は実は貝たちの揺りかごでもあるのです。だからツノガイはあの場所からの「命のたより」なのです。

ナミコガイは満潮の時、瀬嵩前浜の砂浜から飛び出して波に乗り、波によって移動し新しい場所で素早く砂に潜るそうです。ナミコガイが波に乗る景色をいつかこの目で見たいと思っています。ナミコガイは埋め立て前の与那原の浜にたくさんいたそうです。「貝と言葉のミュージアム」主宰の名和純さんは、与那原のナミコガイの消滅にがっかりしました。そのナミコガイに2017年、瀬嵩前浜で再会します。名和さんは喜びます。ところが2018年8月、ナミコガイが姿を消しました。浜の沖で新基地建設の埋め立て工事が進んでいたのです。

その5年後(2023年)名和さんは波間に光る金色のナミコガイを発見しました。その数カ月後汀から数十個のナミコガイが湧き出すように現れました。名和さんは担当した新聞のコラムに書きました。

「その後、瀬嵩前浜のナミコガイは、周期的に消滅と再定着を繰り返している。人の世の混迷をじつとうかがっているかのように。絶滅危惧種なのは、人間の方かもしれない。(略)貝たちは何度でも力強くよみがえる。人智を超えた、何か大きな力に促されて。沖縄島の海は、リワイルディング(自然による自然再生)の底知れぬ潜在力を秘めている。」(2025年12月26日沖縄タイムス 唐獅子より抜粋)

名和さんは貝たちの運命を悲嘆しながら、貝からのことづけを伝えてくれています。海は太古の昔から命を育んできたのだなあと思います。人間が謙虚になり、すべての命を尊ぶ世界になる日が一日も早く来ますようにと祈る日々です。みなさま、ごきげんよう！

NPO法人愛実の会寄付者名(敬称略・順不同)

2025年11月11日～2026年2月28日

★ 寄付金

山崎 眞由美	吉岡 満智子	岩橋 常久	難波幸矢
池上 譲治	津田 加代子	宮川 昭明	船曳 愛子
出口 尚	武井 陽一	矢口 由美子	下村 徹嗣
瀬口 昭代	矢澤 綾子	伊藤 暁子	塚田 正昭
高田 よし子	水野 享好	亀田 隆子	楽 有紀美
義井 裕子	丸山 恵津子	飯田 つや子	柴田 京子
藤原 信子	伊藤 久子	松本 普	森山 浜子
森 起美恵	野崎 典子	榊原 喜代子	加藤 真規子
小島 真一	小松 康宏	吉丸 あさ子	土屋 美恵子
伊藤 裕子	伊藤 和子	垣内 裕子	岩田 妙
坂井 仁美	堤 肇	渡辺 真悟	坂田 昌子
伊藤 まり子	佐藤 千萬子	倉田 節子	戸田 真二
比企 敦子	伊藤 あつ子(複数回)		
村上 貴久・裕子	佐藤 純子・正幸	加藤 明宏・朱美	市原 信太郎・誉子

在日大韓基督教会名古屋教会	日本キリスト改革派八事教会	教団)広路教会
南山幼稚園	在日大韓基督教大坂教会女性会	一財)平塚YWCA
教団)鳴海教会	捜真女学校中学部・高等学部	済美高等学校
教団)岡崎教会子ども会	教団)豊山教会	金沢伝道所
京都みぎわキリスト教会	日本福音ルーテル復活教会	教団)田瀬教会
浜松聖書集會	教団)各務原教会	公財)名古屋YWCA
教団)田原吉胡伝道所	教団)名古屋新生教会	教団)坂下教会
名古屋ワイズメンズクラブ	教団)豊田教会	教団)岡崎茨坪伝道所
教団)豊明新生教会		

★ 夢づくり

板倉 美恵子	河合 みち子	大野 智恵	野村 裕子
後藤 宣彦	山田 美紀	都築 典子	佐田 秀子
牧野 雅樹	垣内 裕子	上野 嶺	川口 いづみ
矢澤 綾子			

★ 物品寄付

上野 嶺



ありがとうございました

## 職員を募集しています



**募集職種：生活介護支援員（正職・パート）  
居宅介護（サービス提供責任者・ヘルパー）  
調理員（パート）**



**愛実のメンバーと一緒に楽しく過ごしませんか？  
見学の方も大歓迎です  
ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください**

愛実の会HP

**担当：竹内（連絡先：052-693-5897）**

2025年度の寄附金目標150万円に対し、2026年2月末までに175万円ものご寄附をお寄せいただきました。温かいご支援に、心より感謝申し上げます。皆さまからいただいたお気持ち一つひとつが私たちの活動を大きく支えてくれています。これからも、その思いを大切に受けとめながら、より良い活動につなげてまいります。今後とも、あたたかいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

### 【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

□ 障がい者デイセンター愛実（生活介護）  
〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24  
TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

□ 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）  
〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24  
TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639

E-mail [info@aminokai.com](mailto:info@aminokai.com)  
ホームページ <http://www.aminokai.com>

### 【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490  
□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1000円 何口でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）